

郷土かみのかわの歴史・文化財

県指定文化財 普門寺のお葉付き・ラッパ・斑入りイチョウ

イチョウは中国原産の落葉高木で、上三川町の木であります。この木がどのような形で日本に伝わったかは諸説あり、鎌倉時代に禅宗の伝播と共に伝わったとも考えられています。イチョウというと実である銀杏が食用とされることを知られていますが、碁盤や将棋盤、まな板に適した木材としても有名です。このほかにも街路樹として植えられることが多く、特にこれからが、一年でもつとも美しい季節です。

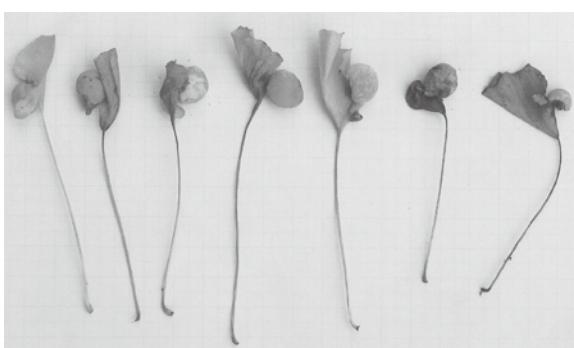
さて、イチョウは巨大な木も多く、中にはまれに植物の進化過程を示す特徴を残すものがあります。普門寺のイチョウは、樹高が約26m、胸高周囲も4.2mを測り、樹齢も320年と古い上に、その特徴が3つもある全国的に見ても貴重なイチョウなのです。まず「お葉付き」とよばれる特徴です。これは葉に種子がつけるもので、次に「ラッパ」という

現象ですが、葉の縁がくつついて、ラッパのような形になるものをいいます。そして最後に「斑入り」。通常は緑の葉ですが、白や黄色の縞模様が入るもので、これらの特徴は、イチョウがシダ植物などの原始的な植物の特徴をもつ古い木であることを示すものなのです。

この珍しい特徴を持つ木には一つの伝説が伝わっています。普門寺が建立される以前、この一帯はうつそうとした藪で、ある日その中にあるイチョウの老木が、毎晩鳴くようになつたといいます。すると、上三川城中でも異変が起り、城主横田綱親自身が討死する悪夢を見るようになり、イチョウの老木を供養した後に井原西鶴「世間胸算用」を刊行する。普門寺本尊十一面觀世音菩薩像が、京都七条大仏師法橋大内藏江によつて作られる。

現在のイチョウの木は、この子育てイチョウといわれた木の子どもに当たると考えられますが、お葉付きの特徴は代々しつかりと受け継がれているのです。

やがて、切り倒した木からは新しい芽が育ち、葉に実がなる珍しいイチョウとなり、人々は亡くなつた綱親がわが子を守るような姿となつて実をつけたと信じ、子育てイチョウとして崇拜されましたといいます。



葉に種子が付いた「お葉付き」のイチョウ

江 戸 時 代												室 町 時 代					西暦											
1700	1699	1698	1696	1695	1694	1693	1692	1690	1689	1688	1687	1686	1685	1684	1683	1682	1681	1680	1679	1678	1677	1676	1675	1674	1673	1672		
元禄13	元禄12	元禄11	元禄10	元禄9	元禄8	元禄7	元禄6	元禄5	元禄4	元禄3	元禄2	元禄1	元禄0	寶永9	寶永8	寶永7	寶永6	寶永5	寶永4	寶永3	寶永2	寶永1	寶永0	文明9	文明8	文明7	文明6	文明5
川中子村が田川の氾濫による洪水被害が多いことから、助郷村免除願いを出す。	幕府、歴代天皇の陵墓を調査し修復する。	野犬を武蔵中野の大屋敷に収容する。日光・奥州街道において助郷制が実施される。	井原西鶴「世間胸算用」を刊行する。	松尾芭蕉、亡くなる。	井原西鶴、亡くなる。	松尾芭蕉、「奥のぼそ道」の旅に出発する。	普門寺本尊十一面觀世音菩薩像が、京都七条大仏師法橋大内藏江によつて作られる。	※このころ現在の普門寺のお葉付き・ラッパ・斑入りイチョウが植えられる。	井原西鶴「日本永代藏」を刊行する。	大嘗祭が再興される。	全国で鉄砲改めが実施される。	この年、応仁の乱終わる。	この年、応仁の乱終わる。	宇都宮家当主正綱・横田綱親、その子保業・清業、上野川曲の合戦において没する。	横田綱親、古河公方足利成氏の命をうけた宇都宮家当主正綱とともに上野白井に出陣。	横田綱親、屋敷近くに普門寺を開く。	できごと											
巡回バス最寄りバス停 本郷線（ピンクのバス） 上町下車、徒歩5分 ▼問い合わせ先＝ 生涯学習課 生涯学習係 ☎ 9159																												